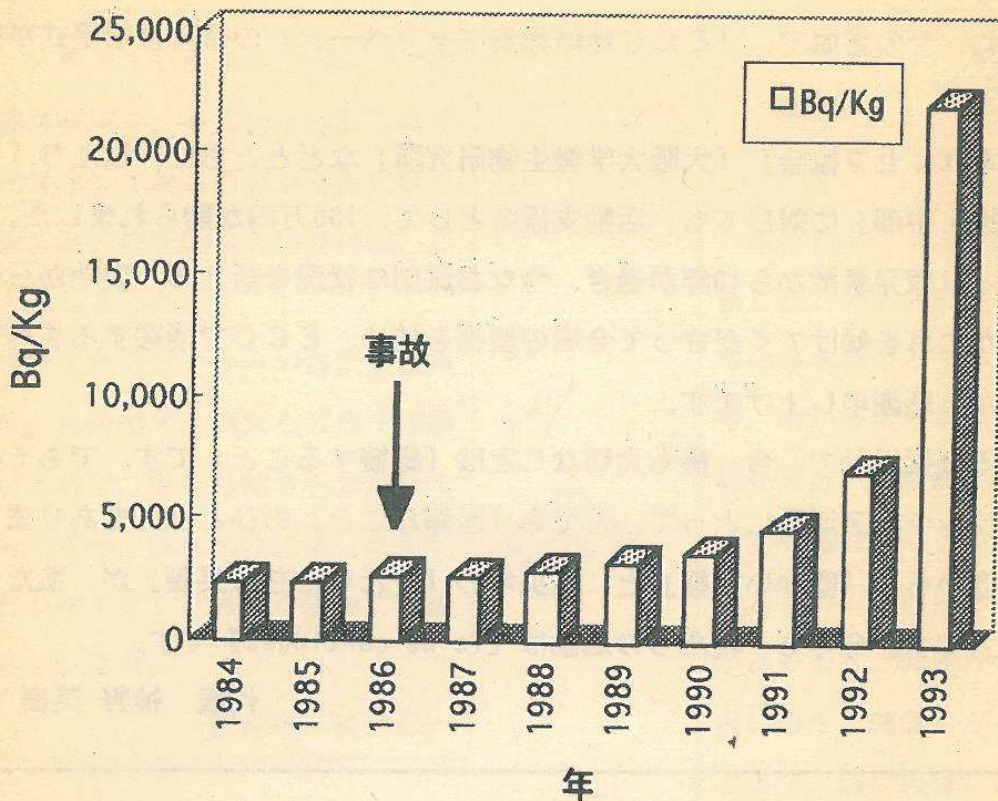


松材年輪中の放射能（ウクライナ、ジトーミル州）



4月のスタディー・ツアーでウクライナへ行った際、ジトーミル市の地域博物館で興味深い物を見つけた。ちょうどチェルノブイリ10周年の展示のために模様替えをしている最中だったが、快く見学させていただいた。事故当時使った測定器や消防士たちの着た防護服、写真等があったが、その中に現在の汚染を示す、いくつかの展示があった。その一つが、上に示した図である。写真がうまく撮れないので、お願いしたらあとでそのコピーをくれた。

ウクライナには松林が沢山あるが、これらの松材には最近になって急激に放射能（セシウム137）が増加しているらしい。論文にもそのように書いたものもある。上の図はそのことを示したデータである。なぜ今ごろになって増えるのか。

その理由は、10年前に事故直後の強烈な放

射能で汚染した木の葉が、今になって腐葉土と化し、植物の根から吸収され易くなったためである。10年前の放射能は、今やっと土に同化した。土壌の汚染標本も展示されていたが、汚染は土壌1Kgあたり森の表面の枯れ葉などの部分が8300ベクレル、土壌表面が22153ベクレル、10センチ下が157900ベクレルであった。これらの木は今後どうなるだろう。山火事が起これば放射能を撒き散らすだろう。切って家を作れば放射能で取り囲まれる暮らしをしなければならないだろう。家具や楽器を作っても、紙を作ってもセシウム137はついて回るだろう。そして、木の実や草の実も再び汚染がひどくなるだろう。それを食べる動物や家畜も……。これからも続く放射能のサイクルである。

(河田昌東)